

第16回「議員と語り合い報告書

総務文教常任委員会

開催日	平成27年8月20日（木） 午後2時00分 ～ 午後3時00分		
開催場所	議会棟 第1委員会室		
団体名	はやと草の根会 代表者 岩元三枝子	参加人数	7人 (男0人：女7人)
出席議員	池田 綱雄、 有村 隆志、 平原 志保、 阿多 己清、 中村 正人、 松元 深 塩井川 幸生、 池田 守、 前川原 正人		
役割分担	委員長（池田綱雄） 副委員長（有村隆志） 記録者（前川原正人）		
テーマ及び具体的な内容	☆女性の活躍推進について ①霧島市の現状について、どう考えているのか。 ②どうすれば、女性議員が増えると思うか。 ③自治会における女性の役割をどうとらえているのか。		
感想	・男性とは違い、女性ならではの鋭い視点で問題提起がなされた。特に「議員に女性を選出すること」の意見交換では、本団体のなかでも「出ないか」との要請もあったが、地域や家族の理解がなく、最終的には「決断ができなかった」との発言には、女性を特別扱いする風潮があるのではないかと感じた。		
反省点	・今回の「草の根の会」での「語り合い」は、テーマが大きくなりすぎ、具体的に双方わかりやすい内容を示していただいた方が、議員側も答えやすかったのではないかと感じた。		

◆は参加者の質問・要望 ◇は議員の回答

<意見交換会での主な意見等>

◆代表あいさつ・・・平成14年度から活動している。霧島市公民館単位で草の根の活動している。少しでも前向きに活動できればと考えている。

◆霧島市の現状について、どう考えているのか。具体的には、管理職の女性の給与や位置などどうなっているのか。

◇女性の比率は、24.7%。役職では、係長級で10.7%（336人中36人）となっている。

◆3割～4割以上を女性の地位向上のために、議員のほうからも政策提言をお願いしたい。また、各審議会にも女性を50%にして、物事を決めるところにもバランスのとれたものにしていただきたい。市男女共同参画条例もあり、この視点で議員も取り組んでほしい。

◇平成27年度3月31日現在で、29.5%が各付属機関での女性委員の登用状況である。

◆市全体で女性が増えたほうが良いと考えているのか。

◇女性はもっと増えたほうが良いし、男性とは違う視点で物事を見られることもある。市民の理解が深まることが大切と考える。

◇女性議員はどうやったら増えていくと思うか。なぜ、議員にならなかったのか。

◆男性側の方にも、議員は男性がやるものといったこともあるのではないか。

◆議員に出るといふことも考えた。現在は、どこも共働きであるが、私自身は多に「援護射撃」をしていきたい。

◆議員としては考えなかったが、応援はしたことはある。

◆議員になりたいと思ったことはないが、いろんなところで「関心を持ちたい」という考えはある。

◆議員全員（総文委員）が「議員や女性の登用をすべき」との考えに感激している。

◆10年ぐらい前に「この団体から議員に」ということがあったが、夫の理解がなかった。しかし、「男女共同参画」という意識を持って子どもの時代からの意識が大切ではないかと思う。女性でないと男性ではわからないと思う。男女が共同することがなければ社会の進歩はない。

◆農業関係へ参画することはできないかとの思いで、農業委員になった。私が出たことで「わたしも出てみようか」ということになるのではないかと考えている。

◆女性議員を議会に出すために、どうしたら良いと考えるか。

◇家庭や地域の理解が必要であり、女性の議員選出はおおいに進めていくべき。

◆女性が活動している自治会での役割はどんなものがあるのか。

◇上小川公民館では女性の会（はつらつ会）、男性は（うぶすな会）で活動している。

◇牧之原では旧婦人会（女性部）が中心になり、各行事を行い活性化のための活動をしている。

◆公民館の役員等で、実際は女性が出席しているが、登録は男性名になっているのはおかしいのではないか。

◇男性の名前で登録するのは、世帯主ということではないか。

◆霧島市予算は、年間550億円もあるのに男女共同参画の予算は、わずか170万円しかない。議会にも責任があり、もっと予算を増やすように努力してほしい。